

EN (絶滅危惧 I B 類)

翼手目 キクガシラコウモリ科

カテゴリー判定基準 : B-1, 2, 3

オキナワコキクガシラコウモリ

Rhinolophus pumilus pumilus Andersen, 1905

英名: Okinawa least horseshoe bat

旧レッドリストカテゴリー		
1991	1998	2007
—	EN	EN

日本固有亜種（種全体として日本固有種）

沖縄島、伊平屋島、渡嘉敷島、久米島に分布する小型のキクガシラコウモリの仲間 (*Rhinolophus*属) である。沖縄島では、繁殖が確認されている洞窟は3ヶ所知られているのみである。

The Okinawa least horseshoe bat, *Rhinolophus pumilus pumilus*, is endemic to Okinawa Island, Iheya-jima, Tokashiki-jima and Kume-jima Islands in Okinawa Prefecture. In Kume-jima a few bats have been found quite recently. On Okinawa Island there were many inhabited caves. Now only one breeding colony of 200 bats in the southern part of the island and two breeding colonies of 2,000 and 1,500 individuals each in the northern part have been recorded. The total area of these islands is 1,271 km², most of which has been reformed for agricultural land and urban districts. The extent of suitable habitat is estimated to be less than 1,000 km². Furthermore, the available foraging forest habitat is severely fragmented and decreasing rapidly.

基礎情報

■形態 小型のキクガシラコウモリの仲間で、前腕長38~42mm、頭胴長38~46mm、尾長18~24mm。体毛は褐色系である。

■分布域 沖縄島、伊平屋島、渡嘉敷島、久米島に分布する。宮古島産のものは別亜種のミヤココキクガシラコウモリ (*R. p. miyakonis*) である。

■生息環境 常緑広葉樹の自然林に生息する。

■生活史 昼間のねぐらは洞窟であり、夜間に採餌のために洞外に出かける。年に1回、初夏に1仔を出産するものと思われる。

現在の生息状況

■分布域の現況 沖縄島の洞窟のある地域で見られるが、繁殖が確認されている洞窟はごく少数である。沖縄島南部では非常に分布が限られてきている。分布する島の面積は1,271km²であるが、その大部分は農地と市街地であるため、出現範囲は多く見積もっても1,000km²以下と考えられる。

えられる。

■生息地の現況 沖縄島南部には昼間のねぐらとなっている洞窟は多いが、その周辺の森林が畠地になり、餌を常時一定量供給できなくなり、個体数が激減していると思われる。また、洞窟の内部環境が周囲の諸開発で変化していることも、洞窟が繁殖に利用されなくなった理由と思われる。なお、沖縄島北部には天然の洞窟が少ないので、人工物である廃坑や隧道がねぐらとして利用されている。久米島では、以前は1,000頭程度が確認されていたが、1987年には10頭くらいに激減していた。伊平屋島では1992年に数頭の採集・目撃があるのみである。渡嘉敷島では1978年に60頭が確認されている。

■個体数の現況 かつては沖縄島全体に繁殖する洞窟があったと思われるが、現在では島南部で200頭前後が生息する繁殖洞窟が1ヶ所、北部では2,000頭と1,500頭くらい生息する繁殖洞窟が2ヶ所知られているだけである。北部で調査が進むと、あと1、2ヶ所の繁殖洞が見つかる可能性はあると思われる。なお、久米島での最近の確認はごく少数のみである。

存続を脅かす要因

森林伐採（11）、土地造成（23）、道路建設（24）、ダム建設（25）など。餌となる昆虫類が年中発生する森林の激減が第一に挙げられる。続いて昼間のねぐらである洞窟の埋め立て（ダム工事や牧場化のため）、さらには環境条件が大幅に変化する観光鍾乳洞などへの改変や洞窟の周囲の農地化などへの改変による洞内の乾燥化が考えられる（18）。

保護対策の現状

とくになし。

特記事項

ねぐら（とくに繁殖用）である洞窟の保護（周辺の改変による洞内への影響を防ぐことを含

む）や周辺のおもな餌場となる広葉樹林の保護が重要である。

参考文献

- 阿部永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明, 2006. 日本の哺乳類改訂2版. 東海大学出版会, 秦野, 206pp.
- Andersen, K., 1905. On some bats of the Genus *Rhinolophus* with remarks on their mutual affinities and descriptions of twenty-six new forms. Proc. Zool. Soc. London, 2: 75-145.
- 日本哺乳類学会編, 1997. レッドデータ日本の哺乳類. 文一総合出版, 東京. 279pp.
- 沖縄県文化環境部自然保護課, 2005. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物、動物編. レッドデータおきなわ. 561pp.

執筆者：前田喜四雄（奈良教育大学 名誉教授）